

順天堂大学医学部附属順天堂医院 公的医療機関等2025プラン

平成30年 3月 策定

【順天堂大学医学部附属順天堂医院の基本情報】

医療機関名：順天堂大学医学部附属順天堂医院

開設主体：学校法人

所在地：東京都文京区本郷3丁目1番3号

許可病床数：1,026床

（病床の種類） 一般	1,011床
精神	15床
（病床機能別） 高度急性期	1,011床

稼働病床数：1,026床

（病床の種類） 一般	1,011床
精神	15床
（病床機能別） 高度急性期	1,011床

診療科目：内科、循環器科、小児科、皮膚科、精神科、外科、脳神経外科、整形外科、
心臓血管外科、形成外科、小児外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産科、
婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、美容外科、リウマチ科、
呼吸器科、呼吸器外科、消化器科、神経内科、救急科、歯科口腔外科、
病理診断科

職員数（常勤）

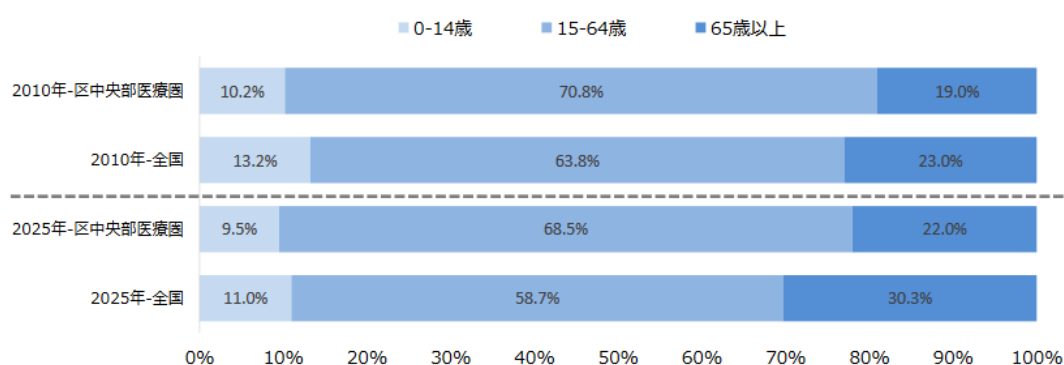
・ 医師	837名
・ 歯科医師	4名
・ 助産師	35名
・ 看護職員	1,094名
・ 歯科衛生士	6名
・ 管理栄養士	15名
・ 診療放射線技師	64名
・ 事務職員他	514名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

- ・区中央部の総人口は2015年に79万人へと増加し（2010年比+4%）、25年に80万人へと増加し（2015年比+1%）、40年に76万人へと減少する（2025年比-5%）と予想されている。一方、75歳以上人口は、2010年6.9万人から15年に7.7万人へと増加（2010年比+12%）、25年にかけて10万人へと増加（2015年比+30%）、40年には11.7万人へと増加する（2025年比+17%）ことが予想されている。
- ・大学病院、高機能病院や地域の基幹病院が複数あり、急性期医療の提供能力が非常に高く、高度な医療を求めて日本中より多くの患者が集まる区域と言える。

図表 13-1-2 区中央部医療圏の年齢別人口推移（再掲）



② 構想区域の課題

- ・区中央部の医療需要は、2015年から25年にかけて11%増加、そのうち0-64歳の医療需要は2015年から25年にかけて7%増加、75歳以上の医療需要は2015年から25年にかけて30%増加することが予想されている。

今後については高度急性期、急性期病院と地域包括ケア体制の連携が不十分で、急性期から回復期に向かった患者の受け入れ態勢が円滑さを欠く。

- ・人口当たりの療養病床数が不足しており、慢性期機能では他医療圏への流出が多い。

③ 自施設の現状

- ・ 理念：順天堂の「天道に則り、自然の摂理に順う」精神で人々の生命を尊重し、人間としての尊厳および権利を守る。更に「不断前進」の精神で、創造的な改革を進め、医療人の育成および最善の医療の提供を目指す。
- ・ 基本方針：
 1. 患者さん一人ひとりに、安全で根拠に基づく良質かつ高度な医療を提供する。
 2. 患者さんと家族が満足できるサービスを提供する。
 3. 患者さんと安心して快適な療養生活ができる環境を提供する。
 4. 特定機能病院として、先進医療の開発・導入を行い、優れた医療技術を提供する
 5. 救急医療活動や在宅医療における役割を担う。さらに災害時の拠点病院として地域医療に貢献する
 6. 省エネ・エコロジーを推進し、環境保全活動に努める。
- ・ 届出入院基本料：特定機能病院一般病棟 7 対 1 入院基本料
- ・ 平均在院日数：10.4日
- ・ 病床稼働率：95.8%
- ・ 職員数： 医師 837名、歯科医師 4名、助産師 35名、看護職員 1,094名
 歯科衛生士 6名、管理栄養士 15名、診療放射線技師 64名、事務職員他 514名
- ・ 施設の特徴：特定機能病院であり高度急性期病床が中心
- ・ 自施設の担う政策医療：特定機能病院、救急指定病院、病院機能評価認定（V1.0）
 エイズ診療拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、東京都認知症疾患センター
 東京都小児がん診療病院、東京都周産期母子医療センター、東京都災害拠点病院
 東京都CCU連絡協議会、東京都難病相談・支援センター
- ・ 大学病院、高機能病院、地域の基幹病院が複数存在する区中央部においても、最大の外来患者数を誇り、病床利用率も90%後半を維持している。
- ・ 特定機能病院として高度急性期患者の受け入れ体制を整備し、高度先進医療等、高難度新規医療に積極的に取り組んでいる。
- ・ 東京都より難病相談・支援センターを受託し、難病患者に対して積極的な対応をおこなっている

④ 自施設の課題

- ・ 救急患者の応需体制の整備と空き病床の更なる有効利用。
- ・ 高度急性期から急性期・回復期に至った患者のスムーズな転院。
- ・ 特定機能病院であるため、研修医の研修や臨床研究も担わなければならない、急性期患者のみの扱いでは研修プログラムの到達目標を達成できない。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・平成28年度中に集中治療室、手術室、救急プライマリーケアセンター等の高度急性期医療の提供体制の拡充をおこなった救急患者、重症患者の受け入れを行うとともに近隣病院と連携を密に重症患者の受け入れや急性期、回復期の患者の移送を積極的おこなっていく。
- ・救急患者の円滑な受け入れを可能とする院内体制の確立と地域および行政への広報。

② 今後持つべき病床機能

・

③ その他見直すべき点

- ・急性期・回復期患者の移送と他院からの重症患者の受け入れをスムーズに実行するための連携体制の強化。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

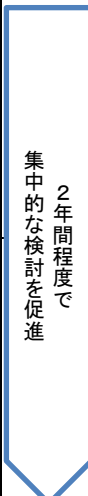

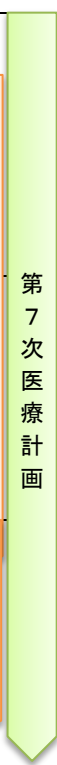
<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	1,011	→	1,036
急性期			
回復期			
慢性期			
(合計)	1,011		1,036

<具体的な方針及び整備計画>

- ・高度急性期機能の維持

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○合意形成に向けた協議	○病床機能の判断基準の設定	
2018年度	○地域医療構想調整会議の内容検討	○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る	
2019～2020年度	○具其他的な病床整備計画を策定	○2020年度中に病棟整備計画を策定	 
2021～2023年度		○2023年度までに病棟を稼働	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 病床稼働率：97%・ 手術室稼働率：100%・ 紹介率：80%・ 逆紹介率：80% <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療材料比率：当該手技に対して10%内 <p>その他：</p>

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--